

第七十七回 九州数学教育会総会ならびに九州算数・数学教育研究（熊本） 大会趣意書

令和五年七月二十七日、二十八日の両日、九州数学教育会総会ならびに九州算数・数学教育研究大会を、熊本市で開催することになりました。この大会は、九州全県の小・中・高等学校及び大学等の算数・数学教育に携わる教職員が一堂に会し、算数・数学教育の充実、発展のために日頃の研究や実践を発表・協議する大会です。本大会は、昭和二十二年に熊本市で第一回研究大会を開催して以来、毎年九州各県を持ち回る形で開催されています。その間、多くの教職員の熱心な取り組みや各教育行政機関ならびに関係各位の絶大なる御支援、御理解のもと、年々充実・発展して参りました。

「知識基盤社会」とも言われる二十一世紀は、新しい知識や情報、技術が政治、経済、文化といったあらゆる領域で活動の基盤として重要性を増しています。科学技術立国を目指す日本では、その基盤となる理数教育の充実が求められています。一方で、PISAやTIMSSなどの国際的な調査では、日本の数学的リテラシーの平均点は引き続き上位グループに属していますが、小学校から中学校に移行すると、数学の学習に対して肯定的な回答をする生徒の割合が低下する傾向にあるという結果が出ています。さらに、令和二年に示された日本学術会議の提言では、高等学校での数学の学習に対する意識の低さが指摘されています。また、新学習指導要領の改訂の柱の一つに「主体的・対話的で深い学び」の充実が掲げられています。

そこで、今回の熊本大会では「**新時代の開拓に資する思考力・表現力を育む算数・数学教育**」を研究主題としております。

近年の新型コロナウイルスの蔓延を契機に、人々の生活様式は大きく変容しました。子どもたちは、変化が激しく新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応していくことが求められる複雑で難しい時代を担っていきます。算数・数学教育を通して、児童・生徒が物事を自ら考え、課題に対して自分自身で答えを見つけ、生涯を通じて主体的に学び続ける態度を身に付けることで自立して生きていくことができるようにしたい、という思いを研究主題に込めました。

九州算数・数学教育研究大会は昭和二十二年の第一回大会以来、これまで十回の大会を熊本において開催して参りました。その折々に、関係各位の御理解と御協力によりまして成功させることができました。今回の大会においても既に実行委員会を立ち上げ、良い大会にするべく準備を進めているところであります。

皆様におかれましては、九州数学教育会総会ならびに九州算数・数学教育研究（熊本）大会の趣旨を御理解いただき、本大会の成功のために御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和四年十月吉日

社団法人 九州数学教育会会長	添田 佳伸	(宮崎大学教授)
熊本大会実行委員長	原岡 喜重	(熊本大学教授)
熊本大会副実行委員長	田口 広明	(熊本市立山ノ内小学校校長)
熊本大会副実行委員長	高木 徹	(熊本市立五霊中学校校長)
熊本大会副実行委員長	光永 幸生	(熊本県立第二高等学校校長)